

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	住居論	
科目基礎情報							
科目番号	94040		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	建設工学専攻A		対象学年	専2			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	「住まいを読む－現代日本住居論」 鈴木成文（建築資料研究社）／適宜資料等を閲覧・配布						
担当教員	前田 博子						
到達目標							
(ア)日本の住居の変遷と背景について説明できる。 (イ)住居の地域性について説明できる。 (ウ)町並みを形成する住居と関連制度等について説明できる。 (エ)集住の種類やしぐみについて説明できる。 (オ)快適な居住地を形成するための住民の取り組みの重要性を説明できる。 (カ)居住地の現状と問題点を分析することができる。							
ルーブリック							
	最低限の到達レベルの目安(優)		最低限の到達レベルの目安(良)		最低限の到達レベルの目安(不可)		
評価項目(ア)	背景について適切に説明できる。		日本の住居の変遷と背景について概ね説明できる。		日本の住居の変遷と背景について説明できない。		
評価項目(イ)	住居の地域性について適切に説明できる。		住居の地域性について概ね説明できる。		住居の地域性について説明できない。		
評価項目(ウ)	町並みを形成する住居と関連制度等について適切に説明できる。		町並みを形成する住居と関連制度等について概ね説明できる。		町並みを形成する住居と関連制度等について説明できない。		
評価項目(エ)	集住の種類やしぐみについて適切に説明できる。		集住の種類やしぐみについて概ね説明できる。		集住の種類やしぐみについて説明できない。		
評価項目(オ)	快適な居住地を形成するための住民の取り組みの重要性を適切に説明できる。		快適な居住地を形成するための住民の取り組みの重要性を概ね説明できる。		快適な居住地を形成するための住民の取り組みの重要性を説明できない。		
評価項目(カ)	居住地の現状と問題点を適切に分析することができる。		居住地の現状と問題点を概ね分析することができる。		居住地の現状と問題点を分析することができない。		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 B3 建築分野の実社会に必要で役立つ知識や技術を応用して問題を解決する能力を修得する。 JABEE d 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力 本校教育目標 ② 基礎学力							
教育方法等							
概要	住居と社会的条件および生活意識との関わりに着目し、日本における住宅の変遷や住様式・住文化の変化を始めとし、住宅および居住地の地域性やまちづくりなどについて理解する。さらに、実例を通して、住居および居住地の環境について、地域性・町並み・集まって住む・住民自身によるまちづくり等まで幅広い視点から考察する。						
授業の進め方・方法							
注意点	(自学自習内容)授業内容に該当する項目について、科目担当教員の薦める文献等で` 予め調べ` てくること。また、授業内容について、決められた期日まで` の課題(レポート)提出を求める。						
選択必修の種別・旧カリ科目名							
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	日本の住宅の変遷	上記(ア)			
		2週	日本の住宅の変遷	上記(ア)			
		3週	日本の住宅の変遷	上記(ア)			
		4週	住宅の地域性	上記(イ)			
		5週	住宅の地域性	上記(イ)			
		6週	町並みをつくる	上記(ウ)			
		7週	町並みをつくる	上記(ウ)			
		8週	町並みをつくる	上記(ウ)			
	2ndQ	9週	集まって住む	上記(エ)			
		10週	集まって住む	上記(エ)			
		11週	住民によるまちづくり	上記(オ)			
		12週	住民によるまちづくり	上記(オ)			
		13週	住民によるまちづくり	上記(オ)			
		14週	事例調査およびレポート発表	上記(オ)(カ)			
		15週	事例調査およびレポート発表	上記(オ)(カ)			
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	定期試験	課題	レポート	発表	合計		
総合評価割合	40	30	15	15	100		
専門的能力	40	30	15	15	100		